

かえで通信

SGLT2阻害薬が心不全での適応追加になりました！

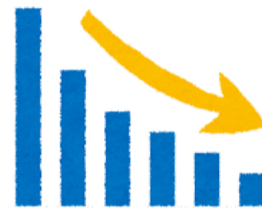
薬剤師 大谷

◆日本で2014年に糖尿病薬として発売されたSGLT2阻害薬は、尿糖の再吸収を抑制し、余分な糖を尿中に排出させて血糖降下作用を発揮するという、インスリン分泌能に依存しない新しいタイプの薬剤です。今までの糖尿病治療薬とは異なり、体重減少効果もあり、低血糖を起こす危険性が低いことも大きな特徴です。

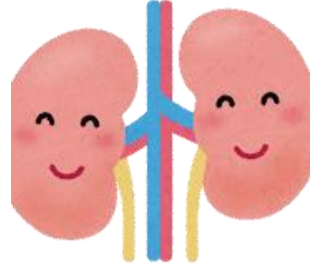
◆SGLT2阻害薬は、発売以来糖尿病の患者さんを対象とした様々な臨床試験で心臓や腎臓を保護するという結果が出ていました。心筋梗塞・狭心症といった心血管イベントや心不全を減らす効果や、腎臓を保護して糖尿病性腎症を抑える効果など、血糖を下げるだけではない様々な効果が確認されてきています。特にSGLT2阻害薬による心不全抑制効果は、他の糖尿病薬では考えられないほどの効果があり、この度、心不全が追加適応となりました。副作用としては、SGLT2を阻害することで、多尿やそれに伴う尿路感染症をもたらす可能性があります。尿量の増加のため、脱水症状を起こす恐れがあります。こまめな水分摂取を心掛けるようにしましょう。

◆当院で院内採用しているSGLT2阻害薬のエンパグリフロジン（商品名：**ジャディアンス**）でも2型糖尿病の症例において、プラセボ群と比較して、心不全入院や心血管死、総死亡を有意に低下させることや腎イベントの抑制効果が多くの大規模臨床試験で報告されております。現在では、一部のSGLT2阻害薬において、糖尿病治療のみならず心不全や慢性腎臓病など幅広い生活習慣病治療に適応が拡大しています。

主なSGLT2阻害薬の効果



血糖降下作用



腎臓保護効果



心不全抑制効果



体重減少効果

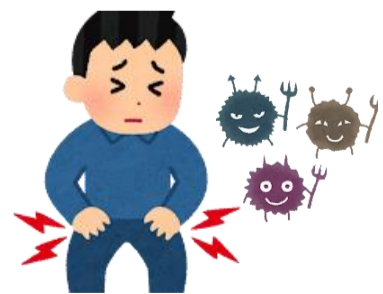
主なSGLT2阻害薬の副作用



脱水症状



多尿・尿量増加



尿路感染症

その他のSGLT2阻害薬（商品名）
スーグラ、フォシーガ、ルセフィ、デベルザ
※ 適応はそれぞれの薬によって異なります。